

第3回 （仮称）平和資料館のあり方を考える懇話会

日 時：平成29年3月24日（金）

13：30～15：30

場 所：小倉リーセントホテル（1階）

「ガーデンホール」

次 第

1 開 会

2 報 告

（1）第2回懇話会における委員の主な意見

3 議 題

（1）（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所等

4 事務連絡

（1）次回日程について

5 閉 会

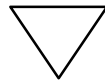
(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会の進め方

1月 18日
(水)

第1回 懇話会

(議題)

- ・他館のコンセプト事例及び・コンセプトに即した機能事例
- ・北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案)についての説明

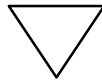


2月 15日
(水)

第2回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所等についての意見聴取

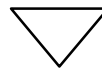


3月 24日
(金)

第3回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所等についての意見聴取



4月～5月

第4回～5回 懇話会

(議題)

- ・委員意見の最終まとめについての意見聴取

報告（１）

第２回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見 (平成 29 年 2 月 15 日（水）開催)

【平和資料館のコンセプト】

- ・地域の歴史資料館であることを中心として、地域と戦争との関わりという点を明確にする必要がある。
- ・平和資料館は全国にある。北九州市と戦争の関わり、空爆、原爆などの中で独自性が大事である。
- ・若い人は平和が大事と言われても実感が無い。平和資料館が建設されるなら、“北九州市のなぜこの場所に資料館が建てられたのか” “なぜ資料館に行かなければならないのか” を明確にした方がよい。
- ・学校の平和教育の授業では、広島、長崎、沖縄などが主に取り扱われているので、北九州市の戦争の歴史があまり知られていない。平和資料館ができると、子どもたちに対して、北九州市の戦争の歴史について情報を発信できる。
- ・北九州市民以外の人にも資料館に来てもらうためにも、“なぜ、北九州市に資料館があるのか” ということを明確にした方がいい。
- ・長州戦争～第 1 2 師団～小倉造兵廠～原爆の目標地となった歴史を表示すべき。

【平和資料館の展示内容・展示方法】

- ・展示内容は北九州、すなわち地域特有の内容を中心とするべきで、“ここでしか見られない” という特色ある内容を追求した方がよい。
- ・展示内容は、事実が全てであるので、淡々と資料を見せる展示方法でよい。
- ・子どもが当時のことを実感できるように、戦争のことだけでなく、どのようなものを食べていたのかなど生活の内容がわかるものも展示してほしい。
- ・原爆も大事なことだが、戦後の市民の暮らしや苦労も大事だ。
- ・子どもに戦争で何人が亡くなったと言っても数字では理解できない。展示にはストーリーが必要である。
- ・映像や音響など五感を通じて体験できるものがよい。

【建設場所について】

- ・歴史的必然性が考慮されるべきである。軍都小倉や陸軍造兵廠があった小倉が最もふさわしい。
- ・原爆の投下予定地は他にもあったが、実際に爆撃機が来て、投下しなかったのは北九州だけである。
- ・市内だけでなく市外の人にも来てもらえるように、交通の結節点である場所に位置することが望ましい。
- ・勝山公園が陸軍の造兵廠であったことを知らずに遊んだり、ジョギングしたりしている人がたくさんいる。勝山公園に資料館があれば、「昔は軍の施設があったが、今は平和の象徴となっている」ということを知らせることができる。
- ・資料館は中央図書館横の勝山公園駐車場付近が良い。
- ・近隣に大型バスなどが駐車できる場所がよい。

議題（１）

（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所等

懇話会の活発な議論のため、本市が例示している別紙「（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）」について論点を示している。

論点１．（仮称）平和資料館のコンセプトについて

論点２．（仮称）平和資料館の主な展示内容について

論点３．（仮称）平和資料館の展示方法について

論点４．（仮称）平和資料館の建設場所について

市議会での主な意見について

【建設場所等】

○勝山公園に建てることの意味

平和資料館は勝山公園のにぎわいという部分から離れたものではないか。勝山公園にこだわらず、広い意見をいただいたほうが良いのでは。

○平和資料館の建設についての提案

平和資料館を全く新規に建設するのではなく、例えば既存施設で、建設から一定期間経過している埋蔵文化財センターの改築や増築で対応することや、仮に単体で建設するとしても、回遊性や連結効果を誘導させるように、例えば中央図書館に併設又は近接して建設するようなプランを検討してはいかがか。

○既存施設の活用等

新設ではなく、既存の施設を使ってもらう。例えば中央図書館の一部を資料館として併設することはどうか。

新設にしても既存の施設を活用するにしても、収入を増やすということも考えるべきであり、資料館の入場料は有料にすべきではないか。

【展示内容等】

○市民グループからの意見聴取

平和資料館の基本計画の策定にあたっては、歴史の客観的な事実を正確に後世に伝えていくこと。戦争を体験した市民の貴重な声や、平和資料館の設置に取り組んできた市民グループなどの意見を反映させる仕組みをつくることを求める。

○折尾・体当たり勇士の展示

北九州市の空と多くの命を救った方（体当たり勇士）の話をぜひ資料館の内容に加えていただきたい。

○戦跡等との関係

平和資料館は市内にある戦争に関わるような場所、足跡を巡るような、そういう場所の中心的な役割を担って欲しい。

○当時の暮らしの展示

悲惨さを伝えることは大事だが、今の自分自身を考えられるように、当時の人たちの暮らしを伝えるような展示をして欲しい。

○情報発信

単なる展示にとどまらず、発信していく機能も大事だ。

【懇話会】

○懇話会の報告

懇話会での意見等について、今後も報告をお願いしたい。

(仮称) 平和資料館について (たたき台)

※懇話会での意見を基に作成

1 (仮称) 平和資料館のコンセプトについて

(1) 建設の趣旨

北九州市では、兵器を製造した陸軍小倉造兵廠、軍需資材の製造を担った八幡製鐵所、海上輸送の要地となった門司港があり、戦争との関わりが深かった。

そのため、日本で初めて米国の空襲を受けたことや小倉が長崎原爆の投下予定地であり、実際に原爆を積んだ爆撃機が飛行したという北九州市特有の歴史が生まれた。

北九州市民はこのような戦争の歴史を重く受け止め、後世に戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎ、平和のための歩みを続けていく必要がある。

そこで、北九州市と先の大戦との関わりの歴史を紐解き、戦中・戦後における市民の生活の苦労や多くの命が失われた悲劇等を市民に伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう、市民一人ひとりが平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする「(仮称) 平和資料館」を建設する。

(2) コンセプト

□北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設

□平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

2 (仮称) 平和資料館の主な展示内容

(1) 北九州市で起きた悲惨な戦争の事実を伝える

市民から寄せられた空襲に関する資料や米国国立公文書館が所蔵している資料等を基に、北九州市で起きた悲惨な戦争の事実を伝える展示を行う。

また、長崎市が所蔵する原爆に関する資料を借り受け、被爆の実情等を伝える展示を行う。

さらに、幕末の内戦から軍都と呼ばれるに到った経緯、開戦前の日本の国際的な立場等、北九州市を取り巻く歴史的背景についても紹介する。

(2) 戦争が引き起こした市民の苦労を伝える

市民から寄贈を受けた戦時下の市民の暮らしが分かる資料等を活用し、戦中・戦後の市民の生活の苦労を紹介する。特に来館する子どもたちが当時の生活を感じることができるよう、子どもたちの日常生活等が分かる資料等を展示する。

3 (仮称) 平和資料館の主な展示方法

市民から寄贈された資料等を展示するとともに、来館する子どもたちの理解をより深めるため、展示ストーリー等を構築し、音響や映像技術を駆使しながら、五感を通じて体験できる展示を行う。

【参考】

展示構成(案) 別紙1のとおり

4 （仮称）平和資料館の建設場所

委員の大半が勝山公園内での建設が望ましいとしている。

5 （仮称）平和資料館の機能

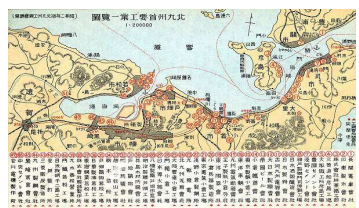
（１）保存機能

市民から寄贈された生活用品や米国国立公文書館から収集した写真、映像等、戦争の事実を伝える資料を保存する。

（２）学習機能

来館者がより、平和について考える機会を確保するため、必要な書籍等を提供する場を設ける。

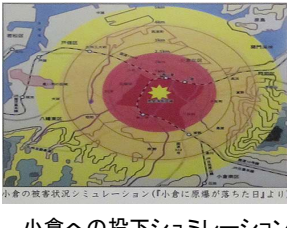
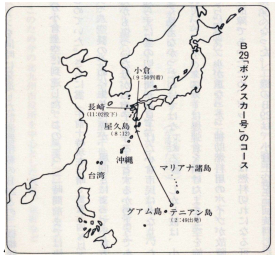
(仮称) 平和資料館展示構成(案)

ゾーン	コーナー	展示概要
プロローグ 展示	戦争と北九州	考える視点: 北九州の戦争の歴史について知る心構えをする。
		近代北九州が軍需産業や防衛の拠点としての一面を持っていたことが招いた空襲の悲劇、市民の生活の苦労、「原爆投下目標地」であった歴史を紹介する。 開戦前の日本の国際的な立場などを取りあげ、戦争にいたるまでの国内外の状況を紹介する。 また、資料館のコンセプト等、館からのメッセージを伝える。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		プロローグ映像(歴史・コンセプト)
軍都の 記憶	①軍都・小倉	考える視点: 小倉造兵廠の歴史を知り、兵器を製造し、工員の過酷な作業に多くの人が動員されたことについて考える。
		小倉造兵廠が小倉に設置された経緯や戦争末期には学徒員により、多くの若者が過酷な作業に従事した様子を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		   小倉造兵廠(写真パネル) 小倉造兵廠(写真パネル) 工員の手帳など持ち物 (実物)
	②鉄の町・八幡	考える視点: 八幡製鐵所の歴史を知り、戦時下で軍需資材の生産を担ったことについて考える。
		日本の近代化を支えた八幡製鐵所を紹介する。また、戦争に向かう中で兵器製造を支えた製鉄産業の役割や重要な空襲の目標となった歴史を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		  戦前の八幡製鐵所(写真パネル) 戦前の工場地帯(パネル)
	③輸送と要塞の港 ・門司	考える視点: 門司港と関門海峡の歴史を知り、兵隊を戦地に送り出す出征について考える。
		貿易港として発展してきた門司港が多くの兵士や軍馬を大陸に送った前線基地となった歴史や日本近海の防衛を担った要塞としての関門海峡を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		   門司港からの出征(写真パネル) 軍馬水飲み場(写真パネル) 出征の寄せ書のぼり(実物)

(仮称) 平和資料館展示構成(案)

ゾーン	コーナー	展示概要
空襲の記憶	①戦時下の暮らし	考える視点:戦争に向かう中で大きく変わった市民の暮らしや戦時下の市民の苦労を考える。
		防空訓練や食料の配給等、戦争により大きく変わっていった市民の暮らしを紹介する。また、子どもたちの日常等も紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		   防空頭巾(実物) 千人針(実物) 召集令状(実物)
	②空襲は日本本土へ (北九州空襲)	考える視点:北九州を襲った空襲の惨禍を考える。
		日本初のB29による本格的な本土空襲等、北九州の空襲被害等を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		五感で感じる展示 ・空襲体験 (プロジェクションマッピング映像投影) ・空襲写真のスライド  溶けたビン(実物)
	③爆弾で覆われた 海と空 (門司・八幡の空襲)	考える視点:戦争末期に激しました北九州の空襲の惨禍を考える。
		戦争末期に頻繁に行われた空襲による被害を紹介する。特に、大きな被害を受けた八幡、門司の空襲被害等を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		 五感で感じる展示 ・空襲体験 (プロジェクションマッピング映像投影) ・空襲写真のスライド 空襲後の八幡 (写真パネル)

(仮称) 平和資料館展示構成(案)

ゾーン	コーナー	展示概要
原爆と北九州	①原爆被害の実情	考える視点: 長崎へ投下された原爆の被害の実情等を知り、原爆による惨禍を考える。
		長崎に原爆に投下された経緯や原爆の被害等を紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		 被災瓦(実物)  浦上天主堂 (写真パネル)  柱時計 (写真パネル)
原爆と北九州	②小倉と長崎の8月9日	考える視点: 長崎に投下された原爆と小倉との関係について知り、小倉に投下された場合の影響等について考える。
		原爆が投下された8月9日の状況等をパネル展示で伝えるとともに、もしも小倉に原爆が投下されていた場合のシミュレーションを紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		 原爆投下(写真パネル)  小倉への投下シミュレーション (パネル)  B29の経路(パネル)
復興の記憶	戦災からの復興	考える視点: 北九州の復興の道のりを知り、先人の努力を知るとともに戦争の記憶の風化について考える。
		戦後、戦災復興都市(門司・八幡・若松市)にも指定された北九州の復興の様子や人々の暮らし等、北九州の復興の道のりを紹介する。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		 平和祈念像(写真パネル)  焼け跡の片付け(写真パネル)  木炭購入通帳(実物)
エピローグ展示	過去への祈り・未来への願い	考える視点: 過去の戦争を通して平和の大切さ・命の尊さについて考える。
		平和の大切さと命の尊さを、原爆犠牲者慰霊碑等、本市が実施している平和の取り組みと併せて、改めて来館者にメッセージとして伝える。
		主な展示手法 (パネル、映像・音響、実物等)のイメージ
		エピローグ映像(メッセージ)

（仮称）平和資料館のコンセプト・設置場所（案）

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後 71 年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなるよう、新たに（仮称）平和資料館を建設するもの。

なお、下記のコンセプト等は懇話会の活発な議論のため、例示している。

1（仮称）平和資料館のコンセプト

- 北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設
- 平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

2（仮称）平和資料館の主な展示内容

- （１）八幡大空襲を始めとする本市の空襲に関する資料
- （２）長崎の原爆に関する資料
- （３）戦後の復興に向けた市民生活に関する資料
- （４）米国国立公文書館から収集した資料

※現在のコーナーに加える主な資料

3（仮称）平和資料館の建設候補地

小倉北区：勝山公園の一角（関連事項・小倉造兵廠、長崎原爆の投下予定地）

他に市議会より八幡東区、門司区「めかり山荘跡地」の意見もでている。